

総合問題Ⅱは、主として論理的かつ多面的な思考力、表現力を問う記述試験である。

〔1〕

問 1: 題材は、子ども虐待に伴う愛着障害と非行との関連を論じている。子ども虐待は喫緊の課題であり、患者の心情理解が求められる医師という職業にとってふさわしいと考えて出題した。患者やその家族の心情を理解したうえで行動を起こすためには、患者やその家族の状況を理解すると同時に、なぜそのように行動することが求められるかという論理的思考が重要である。よって、子ども虐待に伴う愛着障害という題材を解釈できているかどうかを十分に確認し、その上で子ども虐待によって生じた非行に対して、論理的な対策を考えられるかどうかを発問した。自己の体験をもとにした論理的思考に踏み込んだ記述を求めており、受験生の論理的思考を十二分に評価できると考えている。

問 2: 題材は、旅行中に福島県で東日本大震災に遭遇し、地元住民の助けを借りて何とか郷里の神奈川県に帰った作家が、三か月後にボランティアとして被災地を訪れた際のルポルタージュである。被災家屋から住人の人物像や生活状況を読み取っていく様は、医師が患者背景を読み解くプロセスにも似ている。筆者自身の感情の揺れ、筆者の目を通した住人像と復興活動についての読解力、直接的に表現されていない事柄を推測する力、それらを記述する表現力を問う。

〔2〕

問 1: 本問題では、日本における自殺の現状を様々な角度からグラフで示した。(1)においては、3種類のグラフをどのように読み、日本における自殺の現状をその背景まで、考察することを期待する。(2)においては、どのグラフに着目するかで回答が異なる。どのグラフを選択してもよいが、グラフから読み取れる内容、社会的背景などの知識を総合し、根拠を丁寧に説明する能力を問う。

問 2: 将来の医療人として自然科学一般について、幅広く学ぶために必要な基礎学力と論理的洞察力を備え持つ学生を求める観点から、将来の再生医療において導入される可能性がある iPS 細胞の作製法を通して、計算力と論理的思考力を問う問題である。